

第 6 回リндаウ・ノーベル賞受賞者会議 参加報告書 兼 アンケート

所属機関・部局・職名: 神戸大学・大学院経済学研究科・講師

氏名: 糟谷祐介

1. ノーベル賞受賞者の講演を聴いて、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。〔全体的な印象と併せて、特に印象に残ったノーベル賞受賞者の具体的な氏名(3名程度)を挙げ、記載してください。〕

全体的な印象をまとめるのに苦労する程受賞者ごとに問題意識も研究アプローチも講演スタイルもばらばらであったというのが全体的な印象である。

分野の新機軸を打ち出したというノーベル賞受賞者に対する固定観念とは裏腹に、Oliver Hart 氏(企業組織の目的関数を問う Milton Friedman の古典的研究)、Eric Maskin 氏(多数決ルールと Arrow の不可能性定理)、James A. Mirrlees 氏(確率的選択に関する Luce モデル)の講演は古くて馴染み深いテーマを扱っており、まるで大学院授業の一回目に出席しているようであった。実りある革新に必要なのはあえて人のやらないことをやろうとする思いばかりではなく、伝統に寄りすがりつつ古き皮袋に新しい酒を入れる精神なのだと改めて気付かされた。

2. ノーベル賞受賞者とのディスカッション、インフォーマルな交流(食事、休憩時間やエクスカージョン等での交流)の中で、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。〔全体的な印象と併せて、特に印象に残ったノーベル賞受賞者の具体的な氏名(3名程度)を挙げ、記載してください。〕

私が話を聞く機会を得たノーベル賞受賞者は例外なく open-minded で、若手研究者の疑問や問題意識を積極的に咀嚼しているように見受けられた。Myron S. Scholes 氏からはデータ分析の未来についてご高見を賜り、時勢を読むことの意義を再認識させられた。Robert J. Aumann 氏と Lars Peter Hansen 氏からはウィットに富んだ話を交えつつ大局的な視点を持ち続けることの大切さと難しさを教わった。何れの経験も今後研究計画を立てる際に指針を提示してくれると期待している。

3. 諸外国の参加者とのディスカッション、インフォーマルな交流の中で、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。

出身国が抱える社会的問題を解決する為に研究している参加者が一定数いる一方で、際物師の好餌となって果てそうな研究テーマをただ闇雲に追いかけているように見える参加者も少なからずいた。このような観察が自身の今後の研究活動にどのように生かされるかは定かではない。

4. 日本からの参加者とのディスカッション、インフォーマルな交流の中で、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。

私自身を含め多くの日本人参加者の関心が純粋理論に偏重しており、他国の応用理論家や実証家と問題意識を共有するのに言語をはじめ様々な壁が立ちふさがっているという印象を受けた。

研究アジェンダが羊頭狗肉にならない為に(或いはそのような印象を他者に与えない為に)、説明/解明すべき現実の問題、それも地球規模の壮大な問題に限らず出来るだけ身近で時間的視野が然程長くない問題を射程に収めることの大切さを学んだ。

5. 特に良かったと思うリンダウ会議のプログラム(イベント)を3つ挙げ、その理由も記載してください。

- ・ Bavarian Evening
バイエルン地方の伝統的な料理・衣装・音楽・文様を知ることができた。
- ・ Boat Trip to Mainau Island
貴族の華奢な生活の一端を垣間見ることができた。
- ・ Farewell Ceremony
感動的なスピーチを聞いた。

6. その他に、リンダウ会議への参加を通して得られた研究活動におけるメリット[具体的な研究交流の展望がもてた場合にはその予定等を記載してください。]

- ・ 欧州やアジアの研究機関に所属している研究者達と知り合い、将来セミナーに呼んでもらえる足掛かりを作れたこと。
- ・ 自分の研究テーマを(特に欧州の)畑違いの人たちに説明する手順の要諦を掴めたこと。

7. リンダウ会議への参加を通して得られた上記の成果を今後どのように日本国内に還元できると思うか。

日本国内に知識や経験を還元しようと常日頃考えている訳ではないので具体的な方策は思いつかないが、今後も一研究者として当たり前のように研究をして当たり前のように論文を書き続ける所存である。それが巡り巡って国内の教育水準や文化水準を押し上げることに繋がると確信している。

8. 今後、リンダウ会議に参加を希望する者へのアドバイスやメッセージ

- ・ リンダウは異国情緒溢れる観光地です。
- ・ 国際免許証を取得&持参すると現地で運転できて何かと便利です。
- ・ パーティーに着て行く衣装は普段着で全く問題ありません。

リンダウ・ノーベル賞受賞者会議派遣事業
平成 29 年度 参加者アンケート

今後の事業改善の参考にいたしますので、アンケートにご協力くださるようお願いいたします。

1. 本事業をどのような経緯で知りましたか。(複数回答可)

- JSPS の HP
- JSPS のメールマガジン(JSPS Monthly)
- JSPS からのメールでの案内
- 所属機関からの案内
- 所属学会の HP、メールマガジン
- 日本人研究者からの案内(具体的に:[例]所属機関の指導教官、過去のリンダウ会議参加者等)
- 外国人研究者からの案内
- その他(具体的に: _____)

2. リンダウ・ノーベル賞受賞者会議に参加して、どのような影響がありましたか。(複数回答可)

- 学術的な視野が広がった。
- 通常の国際学会では得られないような助言を受けることができた。
- 国際的な場で研究活動を行いたい、という希望が強まった。
- 将来、大学や学会等でリーダーとして活躍したい、という希望が強まった。
- 共同研究等の持続的な研究交流のパートナーが見つかった。
- 自身を研究者として受け入れる研究室が見つかった。
- web やメールではなく、顔を合わせた議論や交流の重要性を認識した。

3. 他の日本人若手研究者にも本事業への参加を勧めたいと思いますか。

- はい
- いいえ

4. 本事業について改善すべき点や、本事業の認知度を上げるためのアイデアがあれば、具体的にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。